

## 1. 趣旨及び発足経過

- ・普通趣旨というと、書道に親しみ、運筆の技を磨き、書道の審美眼を養う等、高邁な理想を掲げるが、そんな目的は幹事自身毛頭考えていなかった。
- ・鎌倉には書道を学ぼうとすれば、教室も数多あり、先生も立派な方が多い。退職後書を習いたいと思っても、どういう教室に入り、どういう先生に師事すればよいか、迷い悩む人の多いのも、また事実である。淡青会の役員から書道教室開設の要請があり、実現の方向に動くことになった。
- ・その為、私の先生にお願いすることにした。先生は北鎌倉の他、都内にも数教室を担当されているが、気持ちよく了承され、教室開設の時間を割いて頂き、実施要領を検討した。
- ・北鎌倉の私の教室（雪堂美術館 2 階）は部屋も 40 畳あり、環境も良いが、問題は教室が畳だったことである。私自身従前より書道は正座でするものと思い込んでいたから、事前に入会を申し出ていた数人の方からの正座では入れないという拒絶反応は教室開設準備の大問題であった。
- ・各所に机椅子の教室を探したが、適当な場所がない。ふっと気がついたのは、雪堂美術館の休日（毎週木曜）に展示ホールの展示物を横に片付け、机椅子を新たに購入することだった。
  - ※ 雪堂美術館は書家の故小野田雪堂氏が生前の書作品、蒐集した中国の古美術品や自作の陶磁器等を展示する鎌倉唯一の小さな書道美術館である。小野田雪堂氏は平成 15 年逝去されたが、生前「書藝新潮社」を主宰され、東京都書道連盟理事長、国際書画連盟初代理事長を歴任された書家。美術館及び書道教室は夫人の小野田芝雪先生が継承している。

## 2. 活動内容

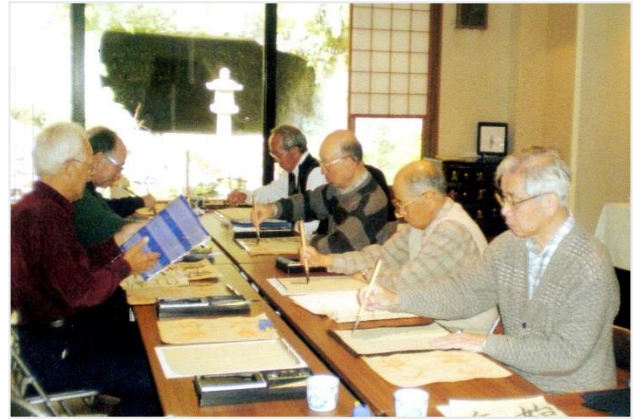
- ・平成 23 年 7 月 19 日発足。 定員 10 名 場所 雪堂美術館
- ・毎月 1 回第 2 木曜日が定例教習日。 午前 10 時から午後 3 時の間 出退時刻自由
- ・定例教習日に欠席した場合、2 階の一般教室（日曜教室月 3 回、水曜教室月 3 回）の教習日を振替日として利用できる。
- ・指導先生は小野田芝雪先生
  - 書藝新潮社副代表 国際書画連盟常任理事・審査員 書道指導歴約 40 年
- ・開設時募集 3 日目で 10 名入会。殆どが小学校以来初めての書道。一定のレベル以上の方はご遠慮いただいたので、筆の持ち方、墨の使い方等からスムーズに出発できたのは幸いだった。
- ・どこの書道塾でも同じと思うが、初めての習作は「千字文」から入る。書藝新潮社には小野田雪堂編書の「真草千字文」（楷書智永・草書小野田雪堂）なる学書がありこれを教科書としている。会員は先生に 4 字分の楷書、草書の手本を頂く。習作添削後、本部に提出する習作を残す。
- ・書藝新潮社の会報「書藝新潮」に各教室共通の楷書課題手本が載っており、統一提出習作となる。先の千字文習作（随意課題）とこの楷書課題習作は本部の審査会に提出され、選ばれた数点の習作は次号会報に写真で紹介され講評される。既に当教室でも何人かは審査写真が発表されており一つの励みとなっている。
- ・すでに会員は全員「細字実用体」の習作の段階にも入っており、いつから条幅、かなの習作に移るかが 1 つの目標であり、自宅の練習に益々拍車がかかることを期待されている。

### 3. 活動実績

	平成 23 年 (2011 年)	平成 24 年 (2012 年)	平成 25 年 (2013 年)
開催日 (第 2 木曜)	7/14, 8/11, 9/8, 10/6 11/10, 12/8 計 6 回 (10 月変更)	1/12, 2/9, 3/8, 4/12, 5/10, 6/7, 7/12, 8/16 9/13, 10/18, 11/8, 12/13 計 12 回 (6 月、8 月、10 月変更)	1/10, 2/14, 3/14, 4/11 4 月末まで計 4 回
参加人数	10 名	4 月まで 10 名、5 月以降 9 名 (5 月業務多忙の為 1 名退会)	9 名



小野田芝雪先生による指導風景



定例教習日の練習風景

\*\*\*\*\* ひとつこと \*\*\*\*\*

- ❖ 白い紙と黒い墨が創り出す調和と躍動の世界を目の当たりにすると、本来は意思を伝える手段として成立した筈の文字が、それ自体で独立して美の対象になりうるものだとごく自然に納得されます。毎回ご懇篤なるご指導をいただき芝雪先生、よき趣味との出会いのきっかけを下さった神戸幹事や皆さまに感謝です。(藤田晋作)
- ❖ 教室は雪堂美術館の 1 階にて休館日に開かれているが、普段は美術館なので雪堂先生の書が沢山展示されている。書を学ぶには書くこともさることながら、見ることも大切といわれるが、なかなか読めない書が多い。大家の書とはこういうものかと思えるには事欠かない環境である。館内は静寂そのものであり、窓からの眺めは鎌倉時代のやぐらを借景に、池には鯉が泳ぎ素晴らしい環境だ。月 1 回の淡青書道会はこの上ない楽しみになっている。(中田和直)
- ❖ 答辞って巻紙に筆書きするものらしかったのですが、近所の方が代筆、お祝いや香典も家内が代筆、年賀状はパソコンが代筆。あれやこれやの代筆依存から脱却すべく 73 にして始めた手習い。正月早々相手の気持ちを悪くさせない字の年賀状が当面の目標で、大きな字のほかに細楷に重点をおいて筆を選んで練習に励んでいます。(井出 朗)
- ❖ 発足した時は小学校以来初めてという方が多かったが、流石に進歩の跡は著しい。芝雪先生も注意した事はすぐ直ってくると感心されていた。書道指導歴 40 年以上の超ベテランだが、淡青教室は楽しくて面白い、と感慨を洩らされている。(幹事 神戸 潔)

\*\*\*\*\*